

座右の銘

大切にしたい4つの言葉



紙谷 浩之 大学院医系科学研究科 薬学分野 核酸分析化学 教授

モットー・座右の銘とまでは言えないかもしれませんが、以下は、私にとっては大切にしたい言葉です。

(i) 自然体、(ii) 継続は力なり、(iii) 天は自ら助くるものを助く、(iv) 「Think, think」

(i) 自分自身を實力以上に見せる必要はなく、単に實力をつければ良いだけであると考えます。残念ながら、自分自身がそれほどできた人間ではないのが現実です。

(ii) (iii) 研究者である以上、言わずもがな、でしょうか。

(iv) これはある映画の主人公が窮地に陥った時に言うセリフです。そこまでのピンチではないかもしれませんが、(研究者) 人生において困ることがしばしばあります。その時に、このセリフのように、考えるように自分に言い聞かせます。

この「モットー・座右の銘」の執筆依頼が来たと言うことは、退職が近いと言うことを意味していると思います。大学4年生の時に卒業研究のため、とある研究室の扉を叩いてから、この40年間は研究センターの人生だったので、退職後の生活には大いなる不安がありますが、上記の言葉 (i) と (iv) は、退職後にも役立つものと期待しています。

残された時間は少なくなりましたが、その日が来るまでは、4つの言葉を大切に、精一杯努力いたします。引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願いいたします。

完成は永遠の未完成



岡田 守人 原爆放射線医科学研究所 腫瘍外科研究分野 教授

座右の銘について寄稿を依頼されたとき、最初に思い浮かんだのは「人生万事塞翁が馬」でした。振り返ってみれば、まさにその通りだと思える出来事がこれまでにいくつもあり、感謝の心の原点ともいえる言葉です。けれども、大学院の広報誌という場を考えたとき、若い方々にはもう少し未来へと背中を押すような言葉がふさわしいのではないかと思います。そこで私が選んだのは、「完成は永遠の未完成」

です。

「永久の未完成、これ完成である」という宮沢賢治の言葉があり、この言葉は『農民芸術概論綱要』に記されているそうです。「完成」と思った瞬間に、人の歩みは止まってしまう。学びや挑戦もそこで区切られ、成長が閉じてしまいます。たとえ「正しい」と信じられていることでも、それはある状況で一時的に正しいと思われているにすぎず、真の意味では「未完成」なのだと思います。組織も、理論も、そして私たち自身も同じです。

だからこそ、「まだ未完成だ」という認識を持ち続けることが大切なのだと思います。問いかけ、試し、また問い直す。その繰り返しのなかにしか、本当の「完成」に近づく道はありません。完成とは、けっして一瞬の到達点ではなく、未完成であり続けようとする姿勢そのものに宿るのではないのでしょうか。